

【南区】令和8年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和8年2月19日(木) 15時00分～16時00分
場 所	南区役所 7階 701～702会議室
出席者	<p>【座 長】高田修平議員</p> <p>【議 員：3名】仁田昌寿議員、渋谷健議員、熊本ちひろ議員</p> <p>【南 区：24名】高澤和義区長、濃野誠副区長、 大塚貴司福祉保健センター長、 鈴木陽子福祉保健センター担当部長、 藤江千瑞土木事務所長、柴田尚正南消防署長（災害対策担当部長）ほか関係職員19人</p>
議 題	令和8年度 個性ある区づくり推進費 南区予算案について
発 言 の 旨	<p>議題「令和8年度 個性ある区づくり推進費 南区予算案について」</p> <p>≪副区長による説明≫</p> <p>【高田議員（座長）】 説明が終わりましたので、質疑および意見交換に入ります。ご発言のある方はいらっしゃいますか。</p> <p>【熊本議員】 何点か順次質問させていただきます。 先ず、5ページの「安全で安心して暮らせる、持続可能なまちづくり」について伺います。「地域防災拠点や関係者・関係団体との連携等により災害への備えの強化」と記載があります。私は、1月に井土ヶ谷小学校で行われました、地域防災拠点での訓練に参加し、いろいろと見学しました。訓練では、仮設トイレの設置を行いましたが、トイレを照らす小型の照明が不点でした。また、トイレのネジを閉める時に、ネジが固定されている部分まで一緒に回ってしまってネジが回らないという状況もありました。設備の不良の管理やメンテナンスはどのようにされているのか伺います。</p> <p>【小田川 総務課長】 資機材点検については、例年6月から7月にかけて、食料、防災資機材の数量及び動作確認、トイレパックの有無、数量、また天井照明の点灯確認などについて行っております。なお、防災資機材の数量及び動作確認については、発電機、投光器、移動式炊飯器、ハンドマイクなどを行っており、ご指摘いただきましたトイレの組み立てのための部品の点検までには至っていないという状況です。地域の方で、訓練の中で実際にお気づきのことがございましたら、ご意見をお寄せいただき、対応させていただけれ</p>

発言の
要旨

ばと存じます。

【熊本議員】

井土ケ谷小学校から、何か報告があったのでしょうか。

【小田川 総務課長】

確認いたしますので、少々お時間を頂戴したいと思います。

【熊本議員】

地域防災拠点訓練について用務員さんから、一緒に連携して、しっかりとこの訓練に参加したいというようにお声をいただいております。また、このように、仮設トイレなどの点検までは至っていない状況ですので、職員に仕事を増やすというわけではないのですが、一緒に参加したいという声もありますので、しっかりと連携を図って強化していただけたらと思います。

【小田川 総務課長】

先ほどお時間を頂戴しますと申し上げました、井土ケ谷小学校地域防災拠点の設備関係の不備があった件について、防災担当に連絡は来ておりませんので、私どもの方から改めて、拠点の委員の方などに確認させていただきます。

【熊本議員】

よろしく願いいたします。災害が起きてから使えないという状況では本当に困りますので、資機材の管理は大変だと思いますが、しっかりと強化していただければと思います。

続きまして、9ページの「子どもの居場所づくり事業」について伺います。子どもの居場所マップを配布しているということですが、どのようなマップをどこに配布しているのか、教えていただけますでしょうか。

【横森 こども家庭支援課長】

区社協と区役所が事務局となり、居場所の情報を掲載したものを作成しております。紙のマップ、ウェブ上でデータの閲覧、入手もできます。居場所は、全部で30か所あり、各居場所、区役所、区社協、ケアプラザ、地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」等で配っております。

【熊本議員】

こども食堂なども掲載されているのですか。

【横森 こども家庭支援課長】

はい、こども食堂や、学習支援を行う団体なども掲載されています。多種多様な内容で皆さんにサポートをしていただいております。

【熊本議員】

南区のこども食堂を1か所見学させていただきました。親御さんと一緒に来られる方もいらっしゃると思いますが、こども1人でふらっと来られ

発言の
要旨

る方も多くいらっしゃいました。このマップには、いろいろな居場所が載っていて便利だと思いましたが、こども向けのマップ、こどもに直接渡りやすいようなマップもあったら良いと思っております。その際は、このように区内全地域のもを載せるのではなく、その地域に住んでいるこどもに、近所のどこに居場所があるよ、みたいなことがしっかりと伝わるような取組が重要だと考えますが、見解を伺います。

【横森 こども家庭支援課長】

こどもの意見をどう生かすかということがすごく重要と考えています。8年度は、ガチャガチャなどのおもちゃを活用し、こどもたちが意見を出しやすい環境を整えます。例えば、みなみさくら祭りなどのイベントの機会を活用して、こどもたちがどのような支援を望んでいるのか、ご飯なのか遊びなのかなど、こどもの意見を取り入れたいと考えております。こども向けの情報提供のあり方につきましては、居場所の30か所の運営団体と検討していきたいと考えています。

【熊本議員】

マップを作る作業も時間がかかりますし、大変な労力がかかると思いますが、是非、親御さん経由ではなく、当事者のこどもが直接キャッチできるような取組をしていただければと思います。

続きまして、11ページの「子育て支援講演会」について伺います。今回、「拡充」となっています。昨年も開催されており、大岡地区センターで24組49人の参加があったと前回の区づくり推進市議員会議で報告がありました。今回、拡充していくということで、場所を増やしていくのか、それとも会場を広くしていくのかなどお伺いしたいと思います。

【野池 学校連携・こども担当課長】

8年度におきましては、箇所数を増やすのではなく1箇所で開催したいと考えておりますが、規模を少し大きくしたり、利便性が良い会場を選んだりしていきたいと考えております。7年度予算では、30組、親と合わせて60人程度の参加者を想定しましたが、8年度は、50組100人程度の規模で開催したいと考えております。

【熊本議員】

強いニーズがあるということでよろしいでしょうか。

【野池 学校連携・こども担当課長】

はい。親子で一緒に遊ぶプログラムをメインとしながら、課題とされている父親の子育て参加をテーマに取り上げますので、参加希望者は多くいらっしゃるかと考えております。

【熊本議員】

講演会だけではなく、一緒に遊ぶようなことも考えているということでしょうか。

【野池 学校連携・こども担当課長】

発言の
要旨

はい、その通りでございます。7年度は、一緒に体を動かしていこうと
いうことをメインとして行っていました。8年度は、それに少し講義を
加えていくことを考えております。

【熊本議員】

わかりました。

続いて、17 ページ「減災対策支援事業」について伺います。なかなか申
請が進まない状況にあると思います。昨年度予算では、申請件数を増やす
ためにガイドブックの増刷や講演会を行うと報告がありましたが、どのよ
うな講演会を行ったのか、お伺いします。

【小田川 総務課長】

講演会につきましては、6月に「阪神・淡路大震災語り部講演会」を区
役所1階多目的ホールで行いました。講師として、「特定非営利活動法人
神戸の絆2005」の代表理事にお越しいただき、被害の状況などをお話し
いただいた後、第二部として、感震ブレイカーの補助制度の説明会、申込会
を行いました。第一部につきましては、42名の方にご参加いただき、第二
部につきましては、15名の方にご参加いただきました。8年度につきまし
ても具体的な講師の方などについては今後の検討になりますが、行って参
りたいと考えております。

【熊本議員】

補助率について、市では重点対策地域は100%に拡充していると思いま
すが、補助制度の説明会や補助率拡充の対応で、申請件数は増えているの
でしょうか。

【小田川 総務課長】

12月末時点での申請ベースの件数で、南区役所全体で家具転倒防止器具
は41件、感震ブレイカーは658件となっております。そのうち、区の補助
対象について、家具転倒防止は18件、感震ブレイカーは144件となっ
ております。なお、南区役所単独で行っております、ガラス飛散防止フィ
ルムについて、7年度は1件となっております。

【熊本議員】

徐々に増えていると見受けられますので、引き続きしっかりと、減災対
策を行っていただきたいと思えます。

最後に、26 ページ「自治会町内会支援事業」について伺います。「新規」
のところで、「加入促進に取り組む自治会町内会に対して、コーディネー
ターの派遣や活動支援等行うモデル事業を実施する」とありますが、コー
ディネーターは、どこにお願いするのでしょうか

【中野 地域振興課長】

モデル事業のコーディネーターについては、まだ決まっておりません。

【熊本議員】

発言の
要旨

今から探して、モデル事業を実施していくということによろしいですか。

【中野 地域振興課長】

モデル事業について、具体的には、意欲的に加入促進に取り組んでいきたいという自治会町内会の伴走支援を想定しております。コーディネーターは例示で、ご希望の自治会町内会があればコーディネーターを派遣します。また、キャンペーン期間にチラシを作りたいということでしたら、そのような費用を補助するなど、自治会町内会の希望に沿った支援をしていきたいと考えております。

【熊本議員】

わかりました。以上です。

【仁田議員】

何点か教えてください。

先ず、7ページの「商店街活性化イベント補助事業」についてですが、「複数商店街が共同で実施するイベント」とありますが、複数商店街の考え方や商店街の組み合わせは、どう考えると良いでしょうか。

【中野 地域振興課長】

商店街の支援にあたり、商店街の方々とヒアリングを行った際に、お互いの商店街を行き来できるような仕掛けを作りたいですとか、南区の商店街連合会として何かイベントを考えていきたいというようなご提案がありましたので、今回、予算を計上いたしました。

【仁田議員】

具体的な商店街の組み合わせや仕組みはこれからでしょうか。

【中野 振興課長】

はい、先生がおっしゃる通り、これから商店街と一緒に考えていきたいと思っております。

【仁田議員】

次に、11ページ「子育て支援講演会」について、父親にスポットを当てることは大事だと思いますが、「利便性が高い会場を」と敢えて記載している考え方や具体的なお考えがあれば教えてください。

【野池 学校連携・こども担当課長】

利便性の高い会場というのは、もう少し人数を増やして、いろいろな方に、父親の育児参加であったり、子育ての楽しさであったり、お伝えしてまいりたいという、そういった思いでございます。

【仁田議員】

発言の
要旨

利便性が高いとは、どういう意味でしょうか。

【野池 学校連携・こども担当課長】

例えば、駅から近い会場であったり、交通の利便性が良い会場であったりということがございます。また、ベビーカーなどが入りやすい建物も会場として考えております。

【仁田議員】

1か所、この会場を考えていますということではなくて、細かくいろいろな場所でやっていきたいと思います、そういうことでしょうか。

【野池 学校連携・こども担当課長】

来年度については、まだ、数か所で開催するという事は考えておらず、1か所と考えておりますが、場所を分散させた方が良いというようなニーズがありましたら、今後、考えていきます。

【仁田議員】

次に、20ページの「地域防犯活動支援」について、「自治会町内会への防犯物品の種類や金額を拡充する」とあります。金額を拡充するということは分かりやすいのですが、防犯事業は地域でも活性化されているかとお見受けできますが、こういった物品の種類を拡充するのでしょうか。

【中野 地域振興課長】

これまでは、連合ごとに区が用意した物品の一覧から選んでいただき、区が購入した物品をお渡ししておりました。ここ数年で、物価も高騰していますし、地域での防犯意識も向上しております。また、連合ごとに町内会の数も違い、町内会の数に応じた、またご希望に添えるような物品を購入できるように、少し金額を上げました。具体的にこの物品を増やしたというものではありません。

【仁田議員】

最後に、お考えがあれば伺いたいのですが、令和7年第4回市会定例会で、「横浜市区づくり推進基金」が設置されました。これまで、このような基金があれば良いなという事例は南区であったのでしょうか。単年度で使い切らなくてはいけないということが、基金を設置した背景の一つであろうかと思いますが、これまでの様子を伺えればと思います。

【小田川 総務課長】

南区においては、非常に高額な現金での寄附は、今まであまり実績がなく、今年度は現金のご寄附はいただいておりません。また、昨年度につきましては、50万円ご寄附を頂戴したという実績がございます。

【仁田議員】

条例が制定された際に、どのように受け止められたのかなと思います。過去の事例では、そのようなことがありましたので、わざわざこの「横浜市区づくり推進基金条例」を制定したということがあるかと思っています。単

発言の
要旨

年度で使い切れない状況があれば、区社協の方をお勧めするという事も制定の際には話題になりました。実績として、南区ではそういうことはないということですね。逆に、寄附のような受け身ではなく、財源を生むということを考えられないのかと思います。国においては、これまで財源といえば税金か事業を止めてこちらに振り分けるということを行っていましたが、新たに、「ジャパン・ファンド」など、ウェルネス・ファンドを創設して財源を生むというような積極的な取組を検討していますし、既に法案を出しています。国と同じように市も、区づくり推進費が潤沢で、何の事業をするのか悩んでしまうものではないと思います。このような基金を設置したことを奇貨として、新たな財源を生む方法などについて何かお考え等はありませんでしょうか。

【小田川 総務課長】

これまで財源確保と申しますと、広告事業が先ず念頭にありました。南区総合庁舎でも広告付き案内板や広告放映用モニターを活用しておりますが、「横浜市区づくり推進基金」の活用ができますので、財源確保は広告という頭を切り替えていかなければならないと考えております。市の方でも、今後、基金の活用などいろいろな広報がされることによって、恐らく、今までご相談に来られなかった区民の方も来られることが増えてくるかと考えています。その際は、適切にご案内を差し上げて、区のために活用していただきたいという方がいらっしゃいましたら、ご意向に沿わせていただきたいと考えます。

【仁田議員】

せっかくのチャンスですから、発想を膨らましていかないといけないと思います。南区には「みなみやげ」があります。それが返礼品となって、ふるさと納税が区に入ってくる。あるかどうかは別として、例えば、区内で小規模なネーミングライツを考えるなど、工夫をこれからしていくことで、区民の皆さんのために、さらに区づくりが進んでいくような財源確保ができると思います。せっかく、このような条例を制定したということは、そういうことがスタートできるということだと思いますので、柔軟に検討して、区民の皆さんのためになれば良いなと思いますので、頑張っていたければと思いますが、ご意見ございますでしょうか。

【黒田 区政推進課長】

「みなみやげ」への返礼品としての可能性ということでご指摘をいただきましたが、現状のふるさと納税の仕組み上、確かに可能でございます。ただ、商品としてパンですとか焼き鳥、お惣菜のようなものが発送に馴染むのか、課題はありますけれども、店舗さんの意向も確認しながらになりますが、可能性は十分探っていけると考えます。財源を確保していく、区でも稼ぐというマインドはこれからの我々にも十分求められていく部分だと考えますので、条例の制定をきっかけにして、いろいろな可能性を探っていきたいと考えています。返礼品として扱うときは、市外の人に選んでもらうようなアプローチも必要になりますので、私どもで運用しているインスタグラムやポータルサイトを通したPRなども含めて、できることを探っていきたいと考えております。

【高田議員（座長）】

2、3点ほど質問させていただきます。

先ず、26ページ「広報事業」のPRボックスの設置についてお伺いさせていただきます。「区の施策・事業等を効果的にPRするため」とありますが、どのような事業をPRするのかということと、「地下鉄3か所に設置します」とありますが、どのような場所に設置していくのかということについて、教えてください。

【黒田 区政推進課長】

PRボックスの更新について、昨年実施しましたデジタルプラットフォームによる意見募集の中で、駅に置いてあるPRボックスは、すぐにチラシが無くなってしまっていたり雑然としたりしている、というご指摘があり、活用を検討する中で、今回、見直しを図るものです。現在、駅に置いていますPRボックスはチラシラックのようなもので、十分な量の配架ができず、月の前半は広報よこはまが置いてありますが、無くなってしまおうと空きスペースになってしまっていたり、チラシを置いた場合でも少しよれて曲がってしまったりということもありましたので、今回、PRボックスの構造自体を作り変えたいと考えております。また、チラシや配架物が無くなった後でも、必要な情報を発信していけるように、例えば、QRコードを常時掲示するなど、他区の例ですと、ポスターのようなものをボックスの中に配置する運用をしている例もありますので、そういったものを参考にしながら考えております。例えば、妊娠と出産の助成金5万円、9万円のPRや、GREEN×EXPO 2027のPRなど、これから市のいろいろな重要施策、取組を発信していく場面が出てきますので、そういった発信の場として、このPRボックスを活用していきたいと考えております。また、地下鉄3か所について、区内の地下鉄駅は、弘明寺駅、蒔田駅、吉野町駅の3か所ございますので、先ずはそちらから設置したいと考えております。また、京急本線にもPRボックスが設置されていますし、阪東橋駅は中区の設置になりますので諸々の調整は必要ですが、今後の検討課題として、しっかりと進めてまいりたいと考えております。

【高田議員】

よろしく願いいたします。

最後に一点、お伺いさせていただきます。地域防犯の面で、コロナ禍前は地域の方に防犯グッズのようなものをお配りして、安全協会と連携して行っていたという経緯があったと思いますが、現在どうなっているのかということと、過去はどのように行っていたのかということについて、お伺いさせていただきます。

【中野 地域振興課長】

先生がおっしゃる通り、コロナ禍前は地域の見守りを、例えば、お買い物しながら、犬の散歩をしながら、「ながら見守り」ということで、それに関する啓発グッズを、登録していただいた方に区役所からお渡ししてお

発言の
要旨

発言の旨

りました。コロナ禍で一旦、止まってしまいましたけれども、現在、防犯意識も向上しておりますので、「ながら見守り」に関する啓発グッズをご希望の方にお渡ししていきたいと考えております。

【高田議員（座長）】

私もそのグッズを見させていただきましたが、確かに使いやすいものもあれば、使いにくいものもあるというのが率直な意見です。旭区では、「わんわんパトロール」といって、腕に腕章を付けたり、リード標を付けたりして、散歩しながら地域をパトロールする取組を行っています。地域防犯に協力してくださる方をリソースとして、地域でしっかり見守っていますよということをPRする良いきっかけだと思いますので、再度復活させていただきたいです。また、グッズを使いやすいものに更新していただき、そのグッズがより広まるような広報ですとか普及の仕方について、是非、来年度ご検討いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【中野 地域振興課長】

「わんわんパトロール」について、南区もコロナ禍前は同じように行っておりました。生活衛生課と連携し、狂犬病の予防注射接種会場にわんちゃんたちがたくさん来ますので、我々がその会場に出向いて、「わんわんパトロール」の登録をしてもらっていらしたので、今後、再開に向けて準備していきたいと考えております。啓発グッズにつきましては、現在検討しておりますのが、リードに付ける反射板がついているようなものですか、そういったものを他区で取り扱っていることも見ておりますので、検討していきたいと考えております。

【高田議員（座長）】

よろしく願いいたします。

【渋谷議員】

1点、教えてください。外国籍等の方が増えていますので、全体を通して、多言語でのいろいろな対応が出てきています。例えば、24ページの「多言語による窓口案内事業」で、「来庁者の多い窓口を設置するタブレット端末の画面を通じた通訳」とありますが、未だにこのようなことをしているのかと思います、少し驚きました。未だに、タブレット端末の画面を通じて通訳をしているのですか。例えば、我々が海外に行く時は、「ポケトーク」を持って行きますが、「ポケトーク」は80以上の言語に対応しています。ほとんどタイムラグはなく、瞬時に言語を通訳してくれます。私は、「ポケトーク」の方が、今は一般的に使われているのかと思っていましたが、端末画面を通じて通訳していることは、時代遅れに感じます。さらに、「通訳ボランティアを配置します」とありますが、「ポケトーク」を持っていたらリアルタイムに会話ができるので、通訳配置は必要ないと思いますが、そういうものを導入しようという思いはないのでしょうか。

【黒田 区政推進課長】

窓口の多言語化について、区政推進課で先ず対応しておりますので、状況のご説明からさせていただきます。ご指摘のありました通訳タブレットの運用でございますが、現状まだ続けてございます。局から貸与されております2台に、区づくりで少し上乘せをして、各窓口に配置して運用しており、11言語に対応しております。それと併せまして、週に1回、市民通訳ボランティアにお越しいただき、英語と中国語での対応をしております。機械タブレットを使った多言語と、対面での通訳支援、それらの合わせ技で、現状は運用してございます。「ポケトーク」などにつきましては、確かに精度も上がってきておりますので、今後、導入の可能性を探っていく、検討していく余地は充分あるかと考えますが、現状につきましては、タブレットと通訳ボランティアの運用になっております。ご指摘も踏えまして、今後の可能性について局とも協議しながら、導入を検討して参ります。

【渋谷議員】

前例ですとか、いろいろな理由があるとは思いますが、「ポケトーク」は2万円程度で売られており、月々千円程度で利用可能です。80以上の言語に対応していて、リアルタイムに翻訳できますし、端末の画面ではスピード感がないと思いますので、是非、便利さを体験していただければ良いかなと思います。

【高田議員（座長）】

他にご発言もないようですので、この程度にとどめたいと思います。以上で、本日の議事は終了いたしました。